

第68期定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

株式会社オーハシテクニカ

連結注記表及び個別注記表につきましては、法令及び当社定款の定めにより、インターネット上の当社ウェブサイト(<https://www.ohashi.co.jp>)に掲載することにより株主の皆様にご提供しております。

連 結 注 記 表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

- ・連結子会社の数 14社
- ・連結子会社の名称
オーハシ技研工業(株)
株オーハシロジスティクス
OHASHI TECHNICA U. S. A. , INC.
OHASHI TECHNICA U. S. A. MANUFACTURING, INC.
OHASHI NAKAHYO U. S. A. , INC.
OHASHI TECHNICA MEXICO, S. A. DE C. V.
大橋精密件（上海）有限公司
大橋精密件制造（広州）有限公司
広州大中精密件有限公司
大橋精密電子（上海）有限公司
OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO. , LTD.
OHASHI SATO (THAILAND) CO. , LTD.
OHASHI TECHNICA UK, LTD.
台灣大橋精密股份有限公司

(2) 持分法の適用に関する事項

- ・持分法適用の関連会社の数 2社
- ・主要な会社等の名称
株テーケー
株ナカヒョウ

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

国内連結子会社2社の決算日は、連結決算日と同一であります。また、在外連結子会社12社の決算日は、2019年12月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、2020年1月1日から連結決算日である2020年3月31日までの間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

- ・時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法

ロ. デリバティブの評価基準及び評価方法

- ・デリバティブ 時価法

ハ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・商品 当社は移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、在外連結子会社は先入先出法による低価法
- ・製品、仕掛品、原材料 国内連結子会社は先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、在外連結子会社は先入先出法による低価法
- ・貯蔵品 最終仕入原価法

- ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- イ. 有形固定資産
(リース資産を除く) 当社及び国内連結子会社は主として定率法を(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)、一部の国内連結子会社は定額法、在外連結子会社は所在地国の会計基準の規定に基づく定額法によっております。
- ロ. 無形固定資産
(リース資産を除く) 当社及び国内連結子会社は定額法、在外連結子会社は所在地国の会計基準の規定に基づく定額法によっております。
なお、のれんについては10年の定額法、当社及び国内連結子会社の自社利用ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- ハ. リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- ニ. 長期前払費用 当社及び国内連結子会社は定額法によっております。
- ③ 重要な引当金の計上基準
- イ. 貸倒引当金 当社及び国内連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
在外連結子会社については、取引先毎の回収可能性に応じた会社所定の基準により必要額を見積り計上しております。
- ロ. 賞与引当金 当社、国内連結子会社及び一部の在外連結子会社は、従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- ハ. 役員賞与引当金 当社は、役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度末における支給見込額を計上しております。
- ④ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項
- イ. 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。
- ロ. 退職給付に係る会計処理の方法 退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、計上しております。
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
ただし、一部の連結子会社は、簡便法を適用しております。
- ハ. 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

国際財務報告基準を適用している子会社は、当連結会計年度より、国際財務報告基準第16号「リース」（以下「IFRS第16号」という。）を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当連結会計年度の期首の利益剰余金に計上しております。

なお、この変更による当連結会計年度の連結計算書類及び1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

3. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「補助金収入」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

なお、前連結会計年度の「補助金収入」は19,834千円であります。

4. 追加情報に関する注記

(厚生年金基金の解散について)

当社が加入していた「東京金属事業厚生年金基金」は、2017年1月27日開催の代議員会の決議に基づき、2017年3月22日付で厚生労働大臣の認可を受け現在清算手続中であります。当基金の解散による追加負担額の発生は見込まれておりません。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 11,961,678千円

(2) 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

(株)テーケー 280,634千円

6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式 16,240,040株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

イ. 2019年6月25日開催の第67期定時株主総会決議による配当に関する事項

・配当金の総額 368,978千円

・1株当たり配当額 25円

・基準日 2019年3月31日

・効力発生日 2019年6月26日

ロ. 2019年11月6日開催の取締役会決議による配当に関する事項

・配当金の総額 383,736千円

・1株当たり配当額 26円

・基準日 2019年9月30日

・効力発生日 2019年12月3日

- ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
2020年6月25日開催の第68期定時株主総会において次のとおり付議いたします。

・配当金の総額	383,736千円
・配当の原資	利益剰余金
・1株当たり配当額	26円
・基準日	2020年3月31日
・効力発生日	2020年6月26日

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金等に限定して運用しております。また、資金調達については、原則として自己資金により充当する方針であります。また、必要に応じて所要額、市場の状況を勘案のうえ、銀行借入、社債発行及び増資等の最適な方法により調達する方針であります。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、実需に伴う取引に限定し、投機的な取引は行わない方針であります。

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、主な取引先は信用度の高い日系の自動車・自動車部品メーカーであります。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握する体制としております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。一部の外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として為替予約を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
① 現金及び預金	21,843,866	21,843,866	—
② 受取手形及び売掛金	6,798,745	6,798,745	—
③ 投資有価証券	1,115,129	1,115,129	—
資産計	29,757,740	29,757,740	—
① 支払手形及び買掛金	2,914,965	2,914,965	—
② 電子記録債務	5,185,536	5,185,536	—
③ 未払法人税等	416,486	416,486	—
負債計	8,516,988	8,516,988	—
デリバティブ取引 (※)	(2,692)	(2,692)	—

(※) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については () で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

① 現金及び預金、② 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

③ 投資有価証券

時価については、株式は取引所の価格によっております。

負 債

① 支払手形及び買掛金、② 電子記録債務、③ 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

デリバティブについては、為替予約取引であり、取引先金融機関から提示された価格によっております。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額265,897千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「③投資有価証券」には含めておりません。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	2,136円23銭
(2) 1株当たり当期純利益	166円87銭

9. 重要な後発事象に関する注記

(自己株式の取得)

当社は2020年5月15日開催の取締役会におきまして、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規程に基づき、自己株式の取得に係る事項について決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため

(2) 取得に係る事項の内容

- | | |
|--------------|--------------------------|
| ① 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| ② 取得し得る株式の総数 | 210,000株（上限） |
| ③ 株式の取得価額の総額 | 300百万円（上限） |
| ④ 取得期間 | 2020年5月19日から2020年9月18日まで |
| ⑤ 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

(自己株式の消却)

当社は2020年5月15日開催の取締役会におきまして、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議いたしました。

(1) 消却の理由

発行株式数の減少を通じた一層の株主利益の増進を図るため

(2) 消却に係る事項の内容

- | | |
|-------------|--|
| ① 消却する株式の種類 | 当社普通株式 |
| ② 消却する株式の数 | 1,480,960株（消却前の発行済株式総数（自己株式を含む）に対する割合 9.12%） |
| ③ 消却予定日 | 2020年5月29日 |

10. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

- イ. 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法
- ロ. その他有価証券

- ・時価のあるもの 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法

② デリバティブの評価基準及び評価方法

- ・デリバティブ 時価法

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・商品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- ・貯蔵品 最終仕入原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

- （リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

② 無形固定資産

- （リース資産を除く）

- ・自社利用のソフトウェア 社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
- ・その他の無形固定資産 定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用して
おります。

④ 長期前払費用

定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度末における支給見込額を計上して
おります。

④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務
の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の
平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分
した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理してしております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- ① 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、
換算差額は損益として処理してしております。

- | | |
|---------------|--|
| ② 退職給付に係る会計処理 | 退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。 |
| ③ 消費税等の会計処理 | 税抜方式によっております。 |

2. 追加情報に関する注記

(厚生年金基金の解散について)

当社が加入していた「東京金属事業厚生年金基金」は、2017年1月27日開催の代議員会の決議に基づき、2017年3月22日付で厚生労働大臣の認可を受け現在清算手続中であり、当基金の解散による追加負担額の発生は見込まれておりません。

3. 貸借対照表に関する注記

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| (1) 有形固定資産の減価償却累計額 | 2,724,601千円 |
| (2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 | |
| ① 短期金銭債権 | 696,126千円 |
| ② 短期金銭債務 | 430,224千円 |
| (3) 保証債務 | |
| 関係会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。 | |
| (株)テーケー | 280,634千円 |

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 営業取引による取引高 | |
| 売上高 | 2,831,835千円 |
| 仕入高 | 3,010,547千円 |
| 業務委託手数料 | 999,842千円 |
| ② 営業取引以外の取引による取引高 | 910,908千円 |

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

- | | |
|------|------------|
| 普通株式 | 1,480,960株 |
|------|------------|

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	78千円
賞与引当金	35,949千円
未払事業税	18,947千円
商品評価損	6,690千円
退職給付引当金	137,648千円
役員退職慰労金	1,685千円
投資有価証券評価損	50,292千円
ゴルフ会員権評価損	17,500千円
資産除去債務	10,100千円
その他	11,561千円
繰延税金資産小計	290,454千円
評価性引当額	△79,667千円
繰延税金資産合計	210,786千円
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	△5,706千円
圧縮積立金	△73,054千円
その他有価証券評価差額金	△7,196千円
繰延税金負債合計	△85,957千円
繰延税金資産純額	124,828千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	30.6%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△8.2%
評価性引当額	△0.4%
住民税均等割等	0.4%
その他	1.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.6%

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	OHASHI TECHNICA U. S. A., INC.	所有 直接 100.0%	当社の販売先役員の兼任	商品の販売(注)	1,072,219	売掛金	259,723

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 商品の販売については、市場価格を勘案し、価格交渉の上で決定しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 1,515円78銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 147円22銭 |

9. 重要な後発事象に関する注記

(自己株式の取得)

当社は2020年5月15日開催の取締役会におきまして、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規程に基づき、自己株式の取得に係る事項について決議いたしました。

- (1) 自己株式の取得を行う理由
株主還元の実現及び資本効率の向上を図るため
- (2) 取得に係る事項の内容
 - ① 取得対象株式の種類 当社普通株式
 - ② 取得し得る株式の総数 210,000株 (上限)
 - ③ 株式の取得価額の総額 300百万円 (上限)
 - ④ 取得期間 2020年5月19日から2020年9月18日まで
 - ⑤ 取得方法 東京証券取引所における市場買付

(自己株式の消却)

当社は2020年5月15日開催の取締役会におきまして、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議いたしました。

- (1) 消却の理由
発行株式数の減少を通じた一層の株主利益の増進を図るため
- (2) 消却に係る事項の内容
 - ① 消却する株式の種類 当社普通株式
 - ② 消却する株式の数 1,480,960株 (消却前の発行済株式総数(自己株式を含む)に対する割合 9.12%)
 - ③ 消却予定日 2020年5月29日

10. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。